

(1 2) 触法行為経験群と一般群の比較

▶▶ 1 鳥取県青少年育成意識調査での区分

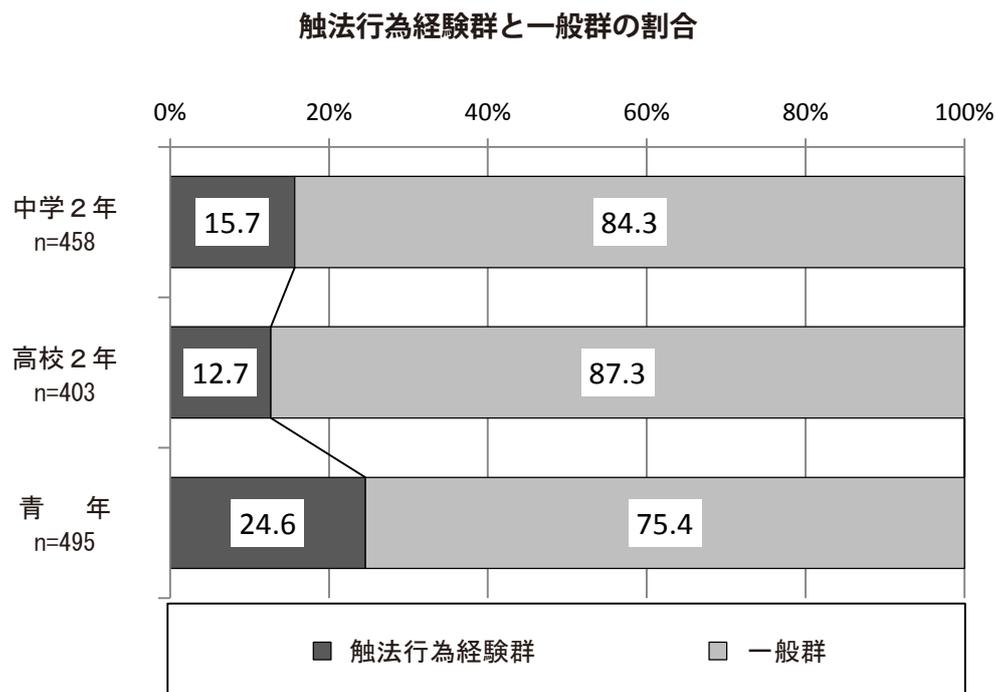
触法行為経験群 = 以下の行為について、1つ以上「1～2度ある」「ときどきある」を選んだ者

- 道に止めてある他人の自転車やオートバイを乗りまわした
- けんかをして、人をなぐった
- 店の品物をお金を払わずに持って出た
- むりやり人からお金や品物をとりあげた
- 覚醒剤やシンナーなどの薬物を使った
- ファッションや護身のためにナイフを持ち歩いた
- 頭の中が真っ白になって暴力をふるった

※ 上記の行為は、内閣府の「第4回 非行原因に関する総合的研究調査(平成22年3月)」を参考に選定。

一 般 群 = 上記以外の者

図132



▶▶ 2 触法行為経験群と一般群の比較方法

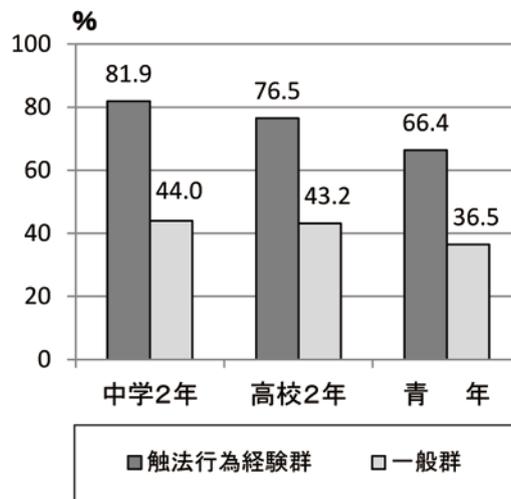
触法行為経験群と一般群別に全質問項目を集計し、回答率に10%以上の差があった項目を抽出した。触法行為経験群と一般群で、2つ以上の年代に共通して差があった主な項目は次のとおり。

(なお、触法行為経験群と一般群別の集計は、有効回答者数(n)から「無回答」を除いて行った。)

▶▶▶ 3 属性

図133

性別（男）



▶▶▶ 4 家庭について

○家庭生活不満足の原因

「家族の仲がよくない」は中学2年で13.8%、高校2年で15.7%、触法行為経験群が一般群を上回っている。

「兄弟、姉妹と比較される」は中学2年で18.3%、高校2年で15.4%、触法行為経験群が一般群を上回っている。

※次のグラフの中に「※」があるものは、比率算出のもとになる人数が25人未満であることを示す。

図134

家庭生活の満足度
(満足している、ほぼ満足しているの合計)

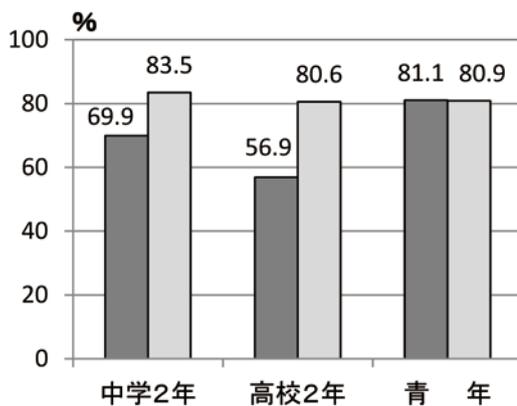
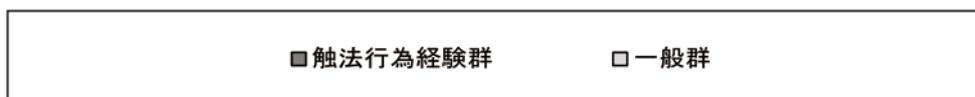
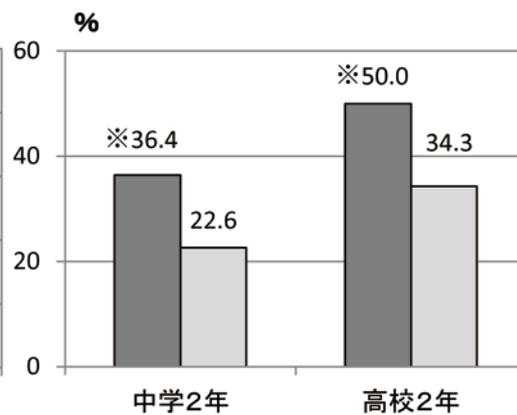


図135

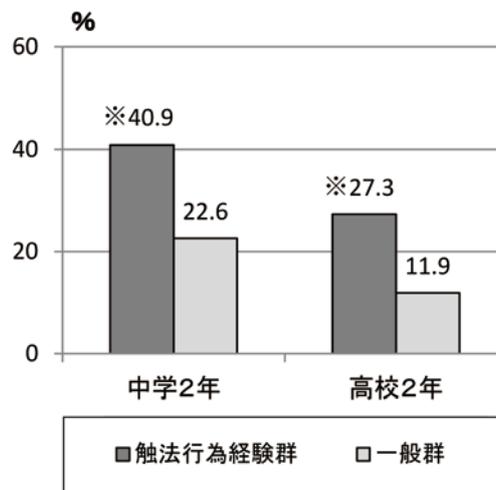
家庭生活不満足の原因
(家族の仲がよくない)



▶▶▶ 4 家庭について

図136

家庭生活不満足の原因（兄弟、姉妹と比較される）



▶▶▶ 5 体験的活動について

○体験的活動

体の不自由な人やお年寄りなど困っている人の手助け「経験あり」は高校2年で10.6%、青年で10.1%触法行為経験群が一般群を上回っている。

図137

包丁やナイフを使って料理をしたことがある

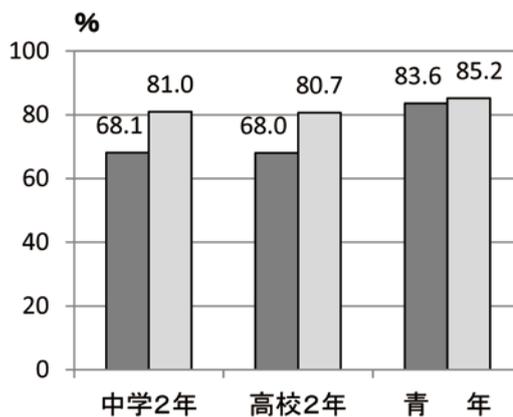
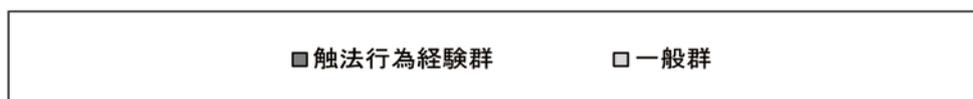
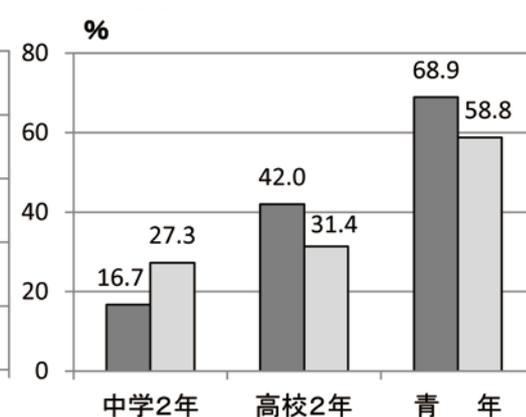


図138

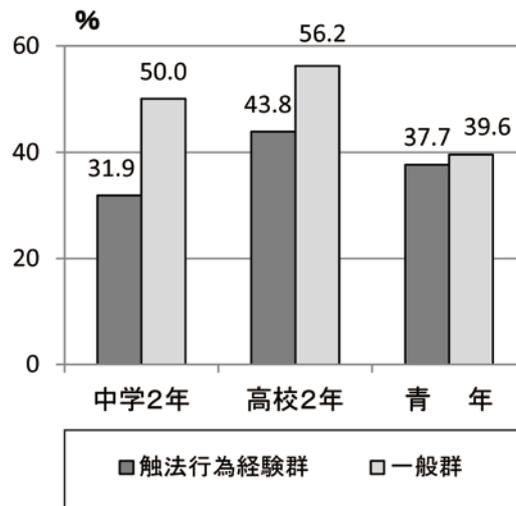
体の不自由な人やお年寄りなど困っている人の手助けをしたことがある



▶▶▶ 6 職業観について

図 139

どんな職場で働きたいか（人間関係・雰囲気がよい職場）



▶▶▶ 7 心の状態

○仰うつ感

「死のうと思ったことがある」について、「ときどきある」「1～2度ある」の合計は、全ての年代で触法行為経験群が一般群を上回っている。

差は大きい順から、高校2年21.4%、中学2年16.6%、青年15.4%である。

図 140

悩みの内容（勉強や成績のこと）

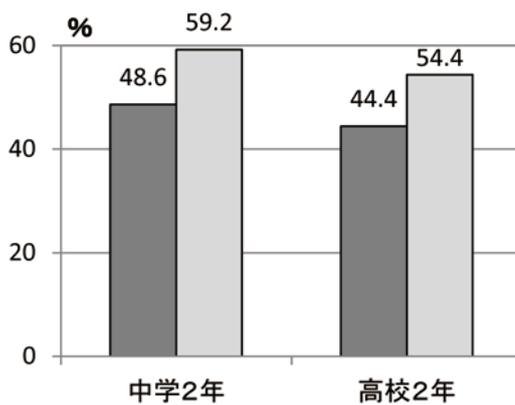
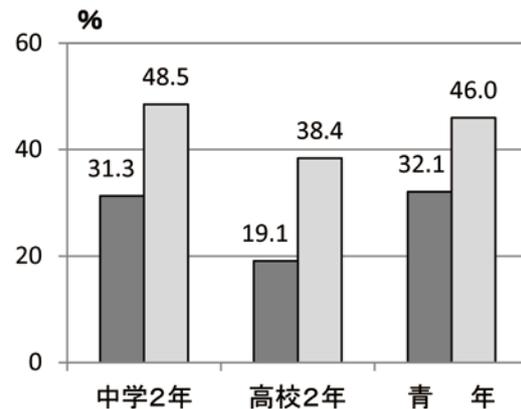


図 141

体悩みの相談相手（母）



7 心の状態

図142

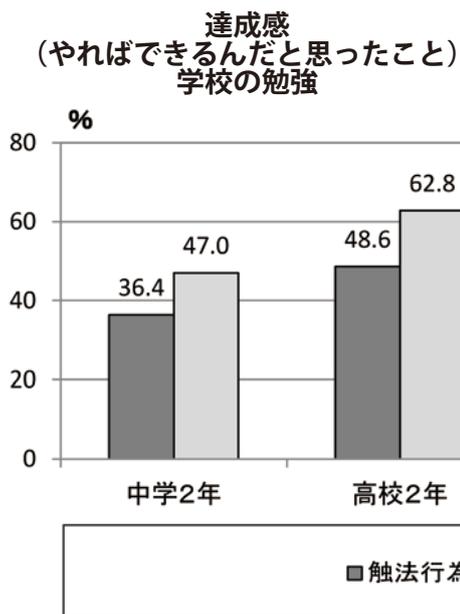
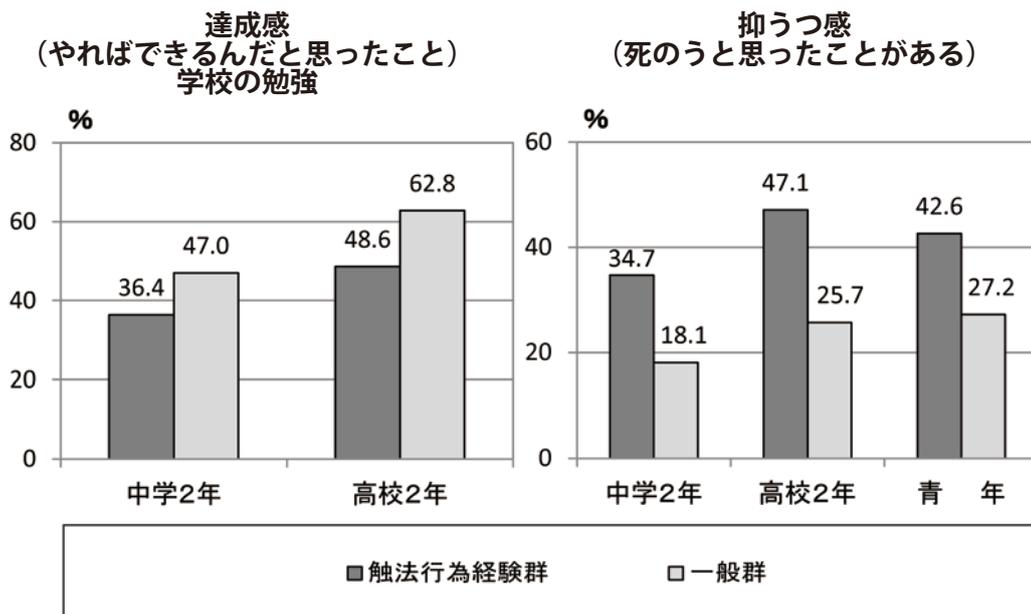


図143



8 異性との交際で今の年齢でもよいと思うこと (青年は高校生の年齢で)

「性関係を持つ」は高校2年で19.2%、青年で21.7%触法行為経験群が一般群を上回っている。

図144

